

令和5年度 学校評価書 (計画段階 ・ 実施段階)

9

福岡県立小倉南高等学校

自己評価					学校関係者評価			
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)		自己評価は A: 適切である B: 概ね適切である C: やや適切である D: 不適切である		
学校運営方針		歴史と伝統、南高PRIDEを継承し、凡事徹底を掲げ、個別最適な学びの実現を目指し、社会において活躍できる生徒の育成を推進する。また、主体的に進路を選択する力、粘り強く取り組む力、社会の変化に柔軟に対応できる力を培い、信頼度の高い学校文化を構築する。			A			
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標					
<p>コロナ禍における学校行事の縮小等の制約を受けながらも、感染症対策を徹底し、学校での学びを大切に教育活動を実践することができた。本校の強みである「高みを目指し、自己実現を図る姿勢の育成」により、前年を大幅に上回る進路実績に結びつけることができた。新学習指導要領および教育改革への円滑な対応を図るため、教育課程や教務内規の改定を行う等カリキュラム・マネジメントを推進した。また、一人一台端末が整備されたことでICT環境も整い、授業改善の機運も高まってきている。今年度は校内研修を充実させることによりICT活用能力を高め、個別最適な学びを目指すとともに、教科科目横断型授業等にも取り組んでいかなければならない。また、HPやSNS、PR紙の活用を積極的に行い、本校の教育活動を組織的に発信していく必要がある。</p>		<p>【教育方針】 「鍛え、ほめ、生徒の可能性を最大限に伸ばし、「自走力」を育成する。」 【重点目標】 個別最適な学びを提供するために、一人一台端末を有効に活用するとともに教職員のICT活用能力をさらに高める。 様々な体験活動や他者と協働した探究的な学びの機会を設定し「思考力・判断力・表現力および学びに向かう力」を高める。 凡事徹底を日々の教育活動の中で積み上げていくことにより全人的な成長を促し、互いの良さや可能性を認めあえる人権尊重の精神の涵養を図る。 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学びに取り組む。 教師力の向上を図り「チーム南高」としての学校力を高めるとともに学校のブランド化を図り生徒・保護者の期待に応え地域に愛される学校を目指す。 教育活動全体を対象とした戦略的広報活動を推進し、生徒募集につなげる。</p>	<p>安易な欠席遅刻を無くし、学習に向かう環境づくりを推進する。(出席率98%以上) 研修を通してクロームブックやICT等の活用能力を高め、個別最適な学びを目指す。(研修年3回) 新しい視点を取り入れた研究授業と教科科目横断型授業を行う。(各教科1回) 総合的な探究の時間等を活用し、大学や企業等と積極的に連携し探究的な学びを実践する。 担任の進路面談(年3回)による個に応じた進路指導と小論文を含む徹底した大学問題研究により生徒の進路実現を支援する。(国公立合格80名以上(九大1名を含む)、難関私大) 教育活動全体を通じた前向きな生徒指導により、自律的に考え行動できる生徒を育てるとともに部活動を活性化させる。(加入率80%以上) 全教育活動を通じ個人が大切にされた環境を作り(生徒への丁寧な呼称・言葉遣い、校内の掲示物、清掃状況等)、自尊感情の育成と将来への展望が持てる人権教育を推進する。 HPやSNS、PR紙の活用及び学校説明会などを通して本校の教育活動を組織的に適宜発信していく。(タイムリーなHPの更新、インスタグラム等の立ち上げ) 卒業時のアンケートで学校満足度90%以上を目指す。</p>					
		部分掌・学年	評価項目	具体的目標			具体的方策	評価(3月)
		教務部	学務課	学習指導	主体的学習態度の育成	生徒一人ひとりの状況を把握し、個に応じた適切な指導を行うことにより、出席率 1年生:99.5% 2年生99.0% 3年生99.0% を目指す。 データ化したライフレポートを有効活用することで、生徒の振り返り・学習活動につながる適切な指導を行い、生徒の自己管理能力を育成する。自宅学習時間(一日平均)1年:120分 2年:140分 3年:160分以上を目指す。 「図書館だより」や「新刊案内」の発行や朝読書週間などの取組、授業での図書館の活用により、本に親しむ態度を育成し、読書による思考力の伸長を図る。図書貸出冊数:7冊/人を目指す。	A B A	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフレポートのデータ化が検討、整備されず新年度がスタートしたため、全クラスでの実施ができず、中途半端な形になってしまった。学校としてどのように運用していくかを再度検討し周知する必要がある。ライフレポートの活用や面談、細かな声掛け等により、生徒の状況を把握し、生徒一人ひとりが出席しやすい環境を作る。 ・授業アンケートは回収・集約をICTを活用することで効率化することができたが、実施時期、回数、質問内容などを検討し、より授業改善につながるものにする必要がある。 ・学校行事や授業などで「1人1台タブレット」を活用する場面は増えている。研修課と連携し、本校内での「1人1台タブレット」の活用事例の共有を行うことで「個別最適な学び」や、「協同的な学び」にさらに繋がっていくと考える。観点別評価についても、教科内での情報共有や検討を行い、評価方法の検証を行う必要がある。
授業改善による教科指導力の向上及び、カリキュラム・マネジメントの推進	授業アンケートを年2回行い、年間指導計画で設定した目標や課題に沿った授業展開ができるように、積極的な授業改善を行う。 生徒の「1人1台タブレット」を有効活用し、ICTを利用した「個別最適な学び」や、「協同的な学び」を推進する。 より良い授業の実施のために、観点別評価による学習評価を行い、授業改善につなげていく。また、評価方法の検証を行い、課題を発見することで、より良い評価方法へのブラッシュアップを図る。				A A			
1 広報業務	広報活動の効果的な実施				中学生や保護者及び地域に本校の魅力を効果的に伝えるために、学校案内パンフレット・ポスター、チラシ等の広報物を作成し、中学校等に配布する。 本校の魅力を効果的に伝えるために、各部課と連携して的確な学校紹介を企画・実施する。	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・特に学校案内ポスターについては、新学期早々から作成に取り掛かり、中学校の1学期保護者会前までに作成完了させる。 ・広報について、特にインスタグラムの内容を充実させるため、情報課をはじめとした各方面と連携する。 ・学校案内パンフレットの表紙について、提案の一つとして、美術部と連携しながら、学校の質をアピールするようなものを作成する。 ・PTA活動について、新理事の募集について、本校の活動を具体的に理解してもらえるようなアピールを行うことで、募集に応じていただけるようにする。 ・課の実務について、担当職員間での実務内容を共有することで、担当職員間の負担の調整に努める。 	
2 庶務業務	校内の行事の円滑な運営				行事・儀式等の円滑な実施のため、各部課と企画・立案の調整に努める。 各行事等の細目の職員への周知徹底を図るため、2ヶ月分行事予定表を毎月中旬までに作成し配布する。	A A		
3 PTA活動と職員福利厚生	PTA活動の積極的な推進と職員福利厚生の充実				PTA活動を積極的に推進するために、PTA総会、総務会(年4回程度実施)、理事会(総務会后)、PTA諸行事の実施を的確に調整する。 親和会計を適切に実施し、衛生的な職員室環境を定期的に維持する。	A A		
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見				<ul style="list-style-type: none"> ・「1人1台タブレット」を授業の中で活用する場面が増えていることは、良いことだ。今後も引き続き活用して欲しい。 ・今回の入試では、定員割れにならず良かったと思うが、安定した倍率が保てるようにして欲しい。 	A		

部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題	項目ごとの評価		
生徒部	指導課	生徒指導	基本的な生活習慣を確立と社会規範・校則遵守の精神の涵養	<p>凡事徹底を日々の学校生活や特別活動において実践し、自己指導能力の育成に努める。すべての学校活動において社会人として通用する教育活動をおこなう。(基本的生活習慣目標 授業出席率99.3%)</p> <p>「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に対する全職員・生徒の意識の高揚を図る。また、問題が発生したときには速やかに対応にあたる。また、Google Formsを活用してアンケートを行い、統計分析を行う。</p> <p>「時を守り、場を清め、礼を正す」を励行し、生活指導の徹底を図る。また、校則等のルールについては、生徒、保護者の意見を反映して常に見直しを行い、その上でルールを守るよう指導し、規範意識を育成する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校則については、今後も更なる校則改訂が予測されるため、改訂方法を再度確認する。また、世の中の情勢やコンプライアンスを把握し、校則を検討していく必要がある。そして、指導課のリーダーシップを発揮し、校則にどのような意味があるのかを生徒に理解させるために、教員間での情報共有を徹底する必要がある。 ・まだ8時昇降口通過が守れていない生徒が多数いるため、登校指導を徹底し、生徒の様子を観察する。 ・部活動については、加入率が78.9%と、目標の加入率を下回ってしまった。また、県大会出場運動部26文化部1、九州大会9、全国大会4、世界大会1、と文化部の県大会出場数も達成できなかった。自ら部活動に励むために入部する生徒を更に増やしていく必要があると考える。 ・学校行事については、各行事において生徒の事後アンケートを必ず実施し、来年度に反映させる必要がある。行事を生徒と教員で一緒に作り上げる姿勢を示し、生徒の意欲を向上させることで、自ら行動する生徒を育むことができると考える。 	A	
			特別活動や部活動を通じた指導による、愛校心や帰属意識の向上	<p>特別活動・部活動やボランティア活動等の多様な他者との関わり合いをとおして、各自の果たすべき役割を認識し、逞しい人間力を育成する。(部活動加入率80%以上 県大会出場 運動部20以上 文化部5以上 九州大会3以上 全国大会2以上)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止による制限された形での学校行事を、通常の形に戻していくとともに、内容を充実させ、南高生としての帰属意識を高める。</p> <p>友人と協力し互いの良さを発揮できる人権尊重の精神を育む。また、様々な学校での活動を通して、社会に通用する生徒の創造力向上を図る。</p>	A			
			ワンヘルスに基づく健康管理の重要性の周知 保健室利用者の把握と、関係職員との連携の徹底	<p>ワンヘルスの考え方を職員が理解した上で、生徒全員がワンヘルスの重要性を認識し、行動できるよう健康管理を徹底させる。</p> <p>保健室利用状況を関係職員で情報共有する。保健委員会が毎月1回発行する保健だより等により、心身の健康に関する意識を高める。また生徒が「保健だより」を作成することで生徒の意識を高める。(保健だより 定期的発行 年間10回)</p>	A			
		保健安全課	保健安全指導	校内施設の点検と、職員に対する安全管理の周知徹底 環境美化や環境衛生の意識の向上	<p>教員と生徒に対して初期指導を実施し、日々の清掃活動を徹底、掃除監督を徹底することにより、校内美化意識の向上を目指し、愛校心の向上を図る。</p> <p>美化委員会・保健委員会の活動を通して、環境衛生に関わり、美化・保健意識を向上させる。定例の美化委員会・保健委員会を実施し、活動を活性化する。(月1回の定例委員会)</p>			A
				生徒・保護者・担任・スクールカウンセラー(SC)や専門機関との連携を基本とした、教育相談活動の推進と生徒支援活動を充実	<p>生徒支援にかかわる情報を、関係職員で共有する。必要に応じて、スクールカウンセラー(SC)や専門機関等との連携を図る。また、気になる生徒については関係職員で会議を実施し、対応を協議する。(配慮を要する生徒の情報交換会 年2回以上)</p> <p>特別支援の必要な生徒に関して、保護者、スクールカウンセラー(SC)、専門機関等との連携を推進し生徒支援を充実させる。個別的教育支援計画を作成し、支援の方向性を共通理解する。(診断生徒の支援計画作成率 100%)</p>			A
				・保健室利用者の情報共有は養護教諭と担任(副任)で連携を取り、生徒の状況把握をしっかり行っていくことを継続してしていきたい。	A			
	進路部	キャリア教育課	1 進学実績	年に1回はオープンキャンパスに参加し、進路について自ら学び自ら考える生徒の育成をはかる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の大きな柱：新課程に対応した共通テスト対策・進路指導に向けた情報収集。進路行事や土曜講座・放課後課外・休業中の補講・サマーオートムウィンタースクール等の見直し。(3年)早期から遠方へも目を向けるような進路指導が必要。改変等に伴う総合型・学校推薦型での定員が増えるため、早期から多様な方法を用いて受験するよう促していく必要がある。今年度は推薦・総合型の個別指導は学年を超えて熱心にご指導していただいた。来年度以降も同様にご指導をしていただくためにも、学校説明会等で直接入試情報を収集する必要があると考える。また、オープンスクールなどの学校行事が土曜日に実施されることが多く、土曜講座の確保や定期的実施が厳しかった。(2年)早期からナビジョンを用いて志望校設定、一人2校以上オープンキャンパスに参加、興味がある分野を探究する時間を設けたことは、生徒の進路意識向上につながっていると考える。来年度、外部模試においては、B2層以上を上位層に引き上げ、A1以上の層を厚くしたい。(1年)今年度はウィンタースクールをほぼ通常の形で実施することができたが、来年度は物価高の影響もあるため、貸切バス料金ももっと値上がりする可能性がある。また、年末は特に私立大学が入試を控えていることから、訪問する上で人数制限等の条件がある場合も多い。日程や内容を見直す必要がある。(GTEC)検定料の値上げ、2年連続で未受験者が60人程度いる状態である。学年によっては検定の英語レベルを変更したほうがよいかもしいない状況であることから、GTECの受験のタイミングやレベルを来年度見直すべきであると考えている。 	A	
				生徒対象の進路講演会を年1回以上開き、自己実現を図る姿勢を育成する。	A			
				進路の手引きを活用した進路ホームルームを開く。卒業生の学びや進路実績、進路関係のスケジュールを把握することで、自ら情報収集をする生徒を育成する。	A			
				ネオ・サザンクロスプランを軸として、夏期・秋期・冬期に体験的なキャリア教育活動や集団学習会・補講授業を実施する。	A			
				大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を各学年適宜実施する。	B			
				(第3学年)保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	A			
進路部		2 ネオサザンクロスプラン	・進学体制の確立 3年間を通じた進学指導の実践、希望進路の実現	(第1学年)1月進研模試において、総合3教科GTZ B1 90人以上、A3 45人以上を目指す。	B			
				(第2学年)1月進研模試において、総合3教科GTZ B1 75人以上、A3 35人以上を目指す。	B			
				(第3学年)国公立大学合格80人以上(うち総合型・学校推薦型選抜45人以上)を目指す。	A			
				(第3学年)放課後課外授業及び土曜講座を実施し、大学入学共通テストにおいて、共通テスト受験率85%以上(うち二次(個別)試験受験70%以上)を目指す。	A			
				支援課	1 修学保障と進路保障	校外での支援の連携	<p>経済的・個別的な課題を抱えた生徒の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。生徒の修学困難な理由を学年と連携して早期に把握し、その課題解決のための手段を講じる。</p>	A
						2 就学・就労保障	外部機関との連携	<p>就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。外部機関との連携を通じて適正な選考が行われるようにならば就学・就労支援に取り組む。生徒に還元できる情報を収集する。</p>
3 支援金、奨学金等を利用した進路支援	家庭状況の理解・把握 事務室と連携	<p>日本学生支援機構など奨学金の情報を、効果的に活用できるように取り組む。支援金や給付金については事務室と連携して確実に取り組む。</p>	A					

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見		
研修部	研修課	職員研修	教師力の向上を図るための校内研修の充実	関係部署との調整を行い、年間8回以上の校内研修の実施を目指す。特に若年教員研修を充実させ、活躍できる若年教員を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のデジタル化に対応するための新たなスキルが身につく研修を実施し、校内の業務の円滑化を図る。 ・学務課とも連携し、授業改善の促進や教科横断的な学びの実現について検討し、具体的な計画を立てることが必要である。 ・教員採用試験の実施日変更に伴い、教育実習期間を変更することが決まっている。有意義な実習となる様工夫や検証をすることが必要である。 ・研究紀要については、今後の教育活動に活かせる内容を充実させ、役に立つ研究紀要を目指す。 	A	A		
			個別最適化された学びを提供するための授業改善	授業参観週間・オープンスクール（公開授業）など授業改善のための行事を2回以上実施する。	A					
			教育実習生の指導	新しい視点を取り入れた研究授業と教科横断型授業を各教科1回以上の実施を目指す。	B					
			将来につなげるための研修紀要の作成	校内外の研修や研究活動の成果を年度末に研究紀要「紀要南薫」にまとめ、今後の教育活動に生かす。	A					
	情報課	教育の情報化	ICT機器利用促進のための研修会やマニュアル作成	統合型校務支援システムへのスムーズな運用・電子黒板や生徒用タブレット端末の効果的な活用、その他教育の情報化の推進を目指し、研修会の実施やマニュアル作成を3件以上実施する。	A					
			ICT環境の整備・改善	校内のネットワーク環境の効果的な活用を目指し、不具合の改善や、古い機器の更新など校内で実施できる整備や改善を年間10件以上実施する。	A					
中学生・保護者・地域・卒業生への情報発信			学校ホームページを月6回以上の頻度で更新し、情報発信を行う。 SNSを立ち上げ月6回以上の投稿を行い、教育活動の発信を行う。	A						
学年部	一学年	1学年指導	授業規律の確立と基礎学力の定着	黙想の励行、チャイムからチャイムまでの授業を実施することで授業規律を確立していく。また、出席率が99.5%以上を目標とする。 生徒の実態に応じた「わかる授業」、主体的・対話的な授業実践をすることともに朝テスト等を活用して個々の基礎学力の定着と向上を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年では、希望進路実現に向けての取り組みと人間性を高めるための取り組みに重点を置き指導を行う。 ・出席率の向上を図る。目標99.0%（本年度97.2%） ・学校生活全般において、道徳教育を重視した指導を行う。 ・学校行事や委員会活動を活用した、リーダーシップとフォロワーシップの育成に取り組む。 ・家庭学習時間の確保による、基礎学力の定着を図る。 ・進路情報の提供や個人面談を活用し、進路目標の設定を含めた、進路意識の高揚を図る。 ・2年生で更なる成長をし、3年生で飛躍を成し遂げるための礎をこの1年で築きたい。 	A	A		
			基本的生活習慣の定着	時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導等を通して規範意識を身につけさせる。家庭学習時間は、1日平均120分以上を目標とする。 3年間を見据えた指導を展開していく。特に学年当初の初期指導を通して集団としての社会性を養う。	A					
			将来を見据えた進路選択	キャリア教育課と連携を図り、サマースクールやウインタースクール等を通してより高みを目指した進路希望を持たせられるよう指導する。また、1月進研模試総合3教科のGTZのA3 45名以上、B1 90名以上を目標にする。 教育課程説明会や進路講演会、学年通信等を活用して生徒・保護者に適切な進路選択のための情報提供を行う。	A					
			生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	教育活動全般を通して人権意識の高揚につとめ、適切な人間関係の構築を図る。	A					
			二学年	2学年指導	習熟度別クラス編成による学力等の育成				自ら学習する意欲を高めることで、140分/日以上家庭学習時間の確保に努めさせる。 FAテストで国数英の基礎力定着（平均得点率85%以上）させ、授業では生徒の能力に応じた教育内容の実践により、学力の向上を図る。	A
					学校の中核としての人材の育成				様々な場面でリーダーとなる生徒の意識を醸成し、学年全体にはフォロワーの重要性を理解させる場を適宜設ける。 行事ごとに事前事後の指導を行い、成就感を味わわせるとともに、課題を発見させ、ステップアップさせる。	A
	具体的進路目標の設定	進路部と連携し、適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。 進路面談を年3回以上行い、適切な進路選択と進路目標の早期設定を促す。 外部テストの事前事後指導を充実させる。結果を設問ごとに分析し、生徒の弱点分野克服のための適切な教科指導を実践する。GTZでB1(75名以上)、A3(35名以上)			A					
	生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	学校生活全般を通して、自己決定できる場や他者と協働する場を設定し、校訓の精神を自覚させるとともに、周囲を思い遣る人権意識の高揚につとめる。			A					
	最高学年として希望進路を実現する、学年全体が学校を牽引するリーダーとしての役割を果たすという2点を学年の指導目標に掲げるとして課題を明らかにする。まず、希望進路実現に対して現状は82%にあたる157名が国公立大学を希望している。一方で直近模試の結果をみると基礎事項定着のための指導と自宅学習時間の確保させるための取り組みが急務である。1月末の0学期講演会以降意欲的な生徒増えている状況もあり、次年度に向けてまず3月、春季休業と、この意欲を落とさないための仕掛けが必要である。同時に面談を早期に実施し、進路目標を明確にさせたうえで学習に臨ませたい。また、模試の活用について事後指導が不十分であったとの反省が多く上がった。教科と学年で検討し、事後指導の体系づくりの様な取り組みが必要であると考え。次にリーダーとして学年を如何に指導するかである。学校行事ごとにリーダーの生徒とやり取りをしてきたが、はじめから主体的に活動できる生徒は多くない。しかし、リーダーに限らず周囲の生徒も、場を設定し、課題を指摘すればそれを修正しようとする状況は見られる。リーダーとなる生徒には早め目標設定、指導計画等をつくらせ、学年全体として後押しできる環境を構築する。	A								
	・南薫祭のステージ企画では、2年生の活躍が目立ちとても良かった。来年度は最上級生として学校を牽引してくれると期待している。	A								

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
学年部	三学年	3学年指導	進路別クラス編成による学力の伸長	希望進路に応じた授業展開を工夫していくとともに、適切に課題を課していくことで、1日平均160分以上の学習時間を確保させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次より家庭学習の習慣をつけられるような工夫が必要。 ・ICTを活用した授業を実施することで、生徒が効率的に学習に取り組めるような工夫をしていかなければならない。 ・学校行事で学年としてリーダーシップを発揮した経験が、その後の学校生活でもっと活きるように指導していくことが必要。 ・コロナ禍で自分を表現することが苦手な生徒も増えてきたが、学校行事を通してリーダーシップの重要性とそこに向かう力を育て、組織力を高めていかなければならない。 ・安易な進路選択をさせないよう、低学年次より柔軟な発想ができるような指導が必要。 ・より高い進路目標設定とそれに向かって努力する力を育成していかなければならない。 ・今まで以上に低学年次より、躰についての丁寧な指導が必要。
				授業や課題配信等にICTを活用し、効率的に学力の定着を図り、生徒が自らの限界突破に挑戦できるような環境づくりを進める。	A		
			自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成	学校行事をとおしてリーダーとフォロワーの役割を理解させ、学年として学校全体を牽引できるリーダーシップを発揮できるよう指導する。	A	A	
				「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての矜持をもたせる。	A		
			進路目標の実現	進路説明会や学年通信等で保護者にも適切な進路情報を提供し、学校・生徒・保護者が一体となった指導で国公立大学進学率40%以上をめざす。	A	A	
				年3回以上の個別面談の実施で進路意識の高揚を図る。学校行事や小論文指導等で総合型選抜や学校推薦型選抜に対応できる力を育成する。	A		
生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	卒業後も置かれた状況の中で自ら考え行動できる人材となれるよう、教育活動全般をとおした指導を継続する。	A	A				
	差別やいじめを許さない環境を整え、生徒の人権意識高揚に努める。特に課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。	A					
事務部	1 適正な事務処理	財務会計事務の適正な処理	職員間の相互チェックを徹底し、適正な事務処理に努める。監査等での指摘ゼロ	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高いコンプライアンス意識を維持し事務処理を進め、監査等の指摘はゼロだった。次年度は大量の業務へのスピード感を持った計画性を向上したい。 ・説得力のある予算要求資料により、長年の懸案であった体育館照明の改修、放送設備の更新を実施できた。
	2 予算の有効活用	本校の学校運営方針に沿った、効果的・効率的な予算執行	各分掌と情報を共有し、教育環境・教育施設の充実に努める。	A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・現段階での進路実績は昨年と同様程度と聞き、十分な成果が上がっていると思う。
A	・施設整備を充実できたようで、今後も随時必要な更新をして欲しい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を徹底しウィズコロナを念頭に学校行事等を工夫しながら学校での学びを大切に教育活動を実践する。 ・高みを目指す自己実現を図る姿勢の育成により、着実な進路実績に結びつける。 ・教育活動の広報活動については、SNSを活用しながら充実を図り、少子化の中でも生徒確保に努める。 	

評価項目以外のものに関する意見